



高知県立坂本龍馬記念館・連続講演会

平成30年度テーマ

〈坂本龍馬とその時代〉

高知県立坂本龍馬記念館では、県内外の研究者による坂本龍馬や幕末に関する最新の研究成果や知見をご披露いただく「連続講演会」を開催します。その第1弾として、平成30年度は「坂本龍馬とその時代」をテーマに、5人の方の講演を実施します。

平成30年 10月27日(土)

歴史研究家 知野 文哉 氏

第1回

慶応3年の坂本龍馬と「船中八策」

平成30年 11月3日(土・祝)

京都国立博物館 上席研究員 宮川 穎一 氏

第2回

坂本龍馬と大政奉還—將軍辞職策をめぐって—

平成30年 11月24日(土)

中國慎太郎館 係長・学芸員 豊田 満広 氏

第3回

中國慎太郎が歴史に名前を残した理由

平成30年 12月9日(日)

東京学芸大学 教授 大石 学 氏

第4回

幕末大河と坂本龍馬—時代考証の経験から—

平成31年 1月12日(土)

大東文化大学 講師 倉持 基 氏

第5回

写真の中の英雄たち—歴史資料としての古写真—

場所

時間

高知県立坂本龍馬記念館 新館ホール 13:30~16:00(質疑応答時間含む)

対象 一般(高校生以上) 定員 各回100名(先着順) 聆講無料

申込方法 高知県立坂本龍馬記念館までお電話・メール・FAXでお申し込みください。
メール、FAXの場合は「お名前・ご住所・お電話番号」をお書きください。

★当時は桂浜公園駐車場から当館までの無料送迎タクシーを実施しますので、できる限りご利用ください。(11:00~17:00頃実施予定)
★講演会を聴講される方には、無料観覧券を進呈いたします。当日、設置する受付にてお申し出ください。

主催・問い合わせ先

高知県立坂本龍馬記念館(公益財団法人高知県文化財団)

〒781-0262 高知市浦戸城山830番地 TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015
ホームページ <https://ryoma-kinenkan.jp> メール ryoma@ryoma-kinenkan.jp

 高知県立坂本龍馬記念館
The Sakamoto Ryoma Memorial Museum

講 師 紹 介

第1回 平成30年10月27日(土) 慶応3年の坂本龍馬と「船中八策」



歴史研究家 **知野 文哉 氏**

講師からのメッセージ

平和革命を目指した龍馬が後藤象二郎に「船中八策」を示し、それが最終的に徳川慶喜の大政奉還へとつながったというエピソードは有名です。しかし慶応3年の龍馬の動きを追ってみると、龍馬は決して武力行使を否定していなかったことがわかります。むしろ龍馬にとって大政奉還はあくまでも幕府を倒す手段のひとつに過ぎず、土佐が薩長に取り残されないことこそが大事だったと考えられます。では、「船中八策」伝説とは何だったのでしょうか。皆さんと考えてみたいと思います。

プロフィール

1967年熊本県出身。少年時代からの坂本龍馬好きが高じ、会社勤めの傍、佛教大学通信教育課程に在籍し、明治維新史の研究にあたる。2013年に上梓した『「坂本龍馬」の誕生—船中八策と坂崎紫瀧一』(人文書院)で、「船中八策」がフィクションだったとの仮説を論証し、第24回高知出版学術賞を受賞した。

第2回 11月3日(土・祝) 坂本龍馬と大政奉還—將軍辞職策をめぐって—



京都国立博物館 上席研究員 **宮川 祎一 氏**

講師からのメッセージ

慶応3年10月10日、將軍徳川慶喜が京都二条城で大政奉還を表明する三日前のこと、土佐から京都に到着したばかりの坂本龍馬は誰に会って何を言ったのか?龍馬はその時点で何を考え、何を成そうとしていたのか?龍馬は後藤象二郎に土佐藩をあげて大政奉還策を進めるように説いたはずだ。しかし彼の「本心」はどのようなものであったのか?残された龍馬の書状等から読み解きます。日本を動かそうとした坂本龍馬の意外な作戦を推理します。

プロフィール

1959年大分県宇佐郡安心院町出身。京都大学大学院文学研究科修士課程修了(考古学)。専門は東アジアの考古学。1986年から兵庫県西宮市の財団法人辰馬考古資料館学芸員。1995年から京都国立博物館に勤務し、特別展覧会として「藤原道長」展(2007年)、「南山城の古寺巡礼」展(2014年)を担当した。京都国立博物館での担当資料に坂本龍馬関係史料が含まれていたのがきっかけで龍馬研究を行う。龍馬関係では、特別展覧会「龍馬の翔けた時代」(2005年)、「没後150年 坂本龍馬」展(2016年)を担当した。主な著書に『日本の美術407号!陶質土器と須恵器』(至文堂、2000年)、『龍馬を読む愉しさ—再発見の書簡が語るもの』(臨川書店、2003年)、『坂本龍馬からの手紙 全書簡現代語訳』(教育評論社、2014年)、『霧島山登山図は龍馬の絵か?』(教育評論社 2016年)など。

第3回 11月24日(土) 中岡慎太郎が歴史に名前を残した理由



中岡慎太郎館 係長・学芸員 **豊田 満広 氏**

講師からのメッセージ

高知県北川村出身の幕末の志士中岡慎太郎。世間では、坂本龍馬の「相棒」、近江屋で龍馬と一緒に殺された人、として取り上げられます。そして、明治時代以降につくられた歴史書では、龍馬と慎太郎は土佐を代表する英雄として並び称されています。本講座では、慎太郎の活躍をたどりながら、慎太郎が、龍馬と並び称される形で、歴史に名前を残した理由をたどります。

プロフィール

幕末政治史を専門に研究。1999年より北川村立中岡慎太郎館学芸員として勤務。主な論文に「土佐藩の大政奉還論決定過程について」(『土佐史談』223号(2003年))、「時勢論」からみた中岡慎太郎」(『靈山歴史館紀要』第16号(2003年))など。北川村立中岡慎太郎館では、「中岡慎太郎と陸援隊」展(2005年)、企画展「幕長戦争—徳川幕府崩壊の引き金」展(2016年)などを担当。また、NHK大河ドラマ『龍馬伝』にも企画委員として関わった。

第4回 12月9日(日) 幕末大河と坂本龍馬—時代考証の経験から—



東京学芸大学 教授 **大石 学 氏**

講師からのメッセージ

明治150年にあたる今年、日本や世界はさまざまな課題に直面しています。ともすると、「正と悪」「勝と負」の二分法で判断しがちな私たちですが、この考え方方は、ともすると大きな犠牲を生むことになります。250年以上の「平和」を経た幕末期、「排除の論理」を克服しつつ、政治世界で活躍した坂本龍馬について、現代的視点から接近したいと考えます。

プロフィール

1953年東京都生まれ。東京学芸大学大学院教育学研究科(修士課程)修了。名城大学助教授、東京学芸大学助教授を経て、2001年より東京学芸大学教授。2016年4月~2018年3月まで東京学芸大学副学長を務める。日本芸術文化振興会監事。『るろうに剣心』(2012年、2014年)『柘植坂の仇討』(2014年)『新選組!』(2004年)『龍馬伝』(2010年)『八重の桜』(2013年)『花燃ゆ』(2015年)『西郷どん』(2018年)など数多くの映画や大河ドラマの時代考証も手掛けている。主な著書に『新選組—最後の武士』の実像ー』(中公新書、2004年)、『江戸の教育力—近代日本の知的基盤ー』(東京学芸大出版会、2007年)、『敗者の日本史15・近世日本の勝者と敗者』(吉川弘文館、2015年)など。

第5回 平成31年1月12日(土) 写真の中の英雄たち—歴史資料としての古写真—



大東文化大学 講師 **倉持 基 氏**

講師からのメッセージ

近年、幕末から明治ごろにかけて日本で撮影された古写真への関心が高まっています。文書に比べ歴史資料として軽視されがちだった古写真を読み解き、情報を引き出す「歴史写真学」の一端を紹介します。膨大な古写真を相互に参照して共通点や相違点を検討することで、単に1枚の写真を眺めただけでは分からなかったものが見えてきます。坂本龍馬やジョン万次郎などの肖像写真、当時の日本の風景写真を例に挙げながら、「歴史写真学」による古写真の見方をお話したいと思います。

プロフィール

1970年東京都新宿区生まれ。東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得満期退学。専門は歴史写真学、歴史情報学。古写真調査研究会副代表として、これまで調査した古写真の数は数万点にのぼる。主な著書に『英雄たちの肖像写真』(渡辺出版、2010年、共著)、『大久保家秘蔵写真一大久保利通とその一族』(国書刊行会、2013年、共著)、『坂本龍馬関係写真集』(国書刊行会、2013年、共著)、『秘蔵写真でたどる華族のアルバム』(KADOKAWA、2015年)、近刊著書として『内田九一写真集』(内田写真株式会社、2018年刊行予定)、『歴史写真学入門—写真から歴史の謎を読み解く』(講談社選書メチエ、2019年刊行予定)がある。『志国高知 幕末維新博』では、高知県内各地の博物館・資料館を巡回する企画展「幕末維新写真展」を監修した。